和字経八

往生要集

六道物語

中

往生要集巻之中

廿一　餓鬼道の事

六道物語

○それ餓鬼道といふハ。住ハ二ツ有。ツハ地の下五百由旬ふかい。閻
浮王宮ハ。二ツハ人ゝの間にあり。そのさまゝ〻多れど今多分
おなじと明さん。あるひハ角のごとく。あるひハ人の手のごとく。あるい
ハ子遠結那。あるひハ雪山のごとし。あるひハ〻ぐさ。ひり獲角と
名ケく。そのゝ大さハ五ツ〻よるとるのゝ二ツ〻ぐ〻ゆとぶくめも
なくして。ひとハ門のごとし。さらしてそ角と焼ぶす。これハ
もし宝ともしぐりて。人と焼こゝろるのゝ。ばしもひとゝろ。
又或ハ〻ぐさ有。食はと名づく。そ角長大よりて七ツ由旬ありたるよ
ハ。ひり獲ケく。ゆゑて。此ものゝ。ものゝ求てゝ名てゝ〻めて此ものゝ

九曜文庫

ゆく。これもしばしばあひ見にて自のゝ悲しくとゝひて歎きより
血の涙。或は女房たちのうつくしきをそ悲しわるくさるのはしらひ
とゝうゝく。又わるひはげゝさかり。食気とゝげく。世の人のやまひたより
て。あの世林の中ふて。おやとまゝあるとゝやはりゝ。ひとりの妻とうそ
命とけゝく。こゝをはもゝ。妻子をのまゝおたをそ。我ひとり夫食
とゝひゝのはしらひとうゝく。又わるひはげゝさうて。食とゝく
く。喚ゝ。はげゝさうもとゝ。ゝもとりて食と求しとゝもゝ求め
はず。のゝ道場よりて。徒跣徒足はけはゝ。切とゝをそ命と
けゝく。是ハ名利とゝさりて。不淫清浄ゝ。はしらひとうゝく
く。又わるひはげゝさかり。おうゝをそ身とこゝ。あをそ
さうゝて水のゝとゝとゝ。ゝはゝ求とゝ。かゝはゝゝゝとて

と歎へゝ。目ふうゝ。はのやとりふ。ゝもとをしさりゝ人
はとうゝとりはゝのゝはげゝさかりはゝ。そのまゝ。やゝく
網とりそ。やゝ。網とけゝ。わるひ人のあとしすびそ
死ゝる父母よりはゝ。おだうとをそ。おちとつゝ。り
自あとはゝはゝのとゝるのゝの鬼どと杖とりはそんゝ。
是ハゝ酒とうゝしまゝとゝ。わるひはゝゝゝひとゝけめ
よゝはとけとめゝるのはしらひとゝゝる。又或はゝゝかり佛をこ
なけゝ。世の人は死ゝる父母はゝあよ。ゝりとまけ。ゝもる
とゝゝ是とをそ。ゝふゝはゝ。よりゝくゝふゝはゝふゝ。
是ハ人の若房をそ。のゝとをゝとゝふゝ。ゝまゝりてとり
見ゝるもの。はしらひとうゝ。又げゝさかり。海のやとりふはれり

丈一 豫鬼ぎの事

をじさ　ほうけ　ぢうのかく　そもところ　そふぐ　あつと
そのあ　ひとにんぐん　ぢの　ぎに　たぐ　ふる　ぞ　ぢうの　ぢ　ぢ　ぢ
りつて　かく　ぐ　ぐ　ぐ

て身とやさわらひをるひち流をつくさぬ水ふくりぬひハ内のさりよ
りて食をるゆとえぐる餓鬼あり。それといふとのふよ。腹ハ大山のご
とくなれども口ハ針のごとくなれば。だとひのごとくふあぶわぐも
もとらくハんとをるれとも。又内かりさりかれとも食ものとりち
ゆくゆわくハぐる餓鬼ありたまくわり食ふけそ。もとらふとひを
しを食じて。猛火とかりうちより身とやそ。ゆいぐるんかよどくぐの
くをふれくのしひふりうそ。餓鬼たのくくくくるの人ちの月とも
ほそ。旦夜そして。者又百業ぐ。ぐけ心ぐ。恠ふくく。悭貪嫉妬のの餓鬼業おりと
抜多り。悭貪とつふハ。我ものとハ者ちりをとをれくくそ。ぐくくくをとこ
なくぐ人のものとハ。むをりてけるんをことふ。さるをどふ仏ものくくふをお欲ゆ
んとをのべるりお欲とハをゆくくのめどそもぶくりめををるゆ身りぐふ

いるんやんいりめをバ。流舌をるひ水ものをぐひぢとまげて抜をくだのを
その中にわくをのり。嫉妬とつふハ人とをを祓ごむゆくぐをだるのもひ
とむをれんひろくもどやくハくそ。人の思ををめずるぐわやきりとうくくめバ
嫉妬ものひをくて者ふんやをるぐくく

市二　高生道の中

○それ高生だくハ生住ふ二ちりり。根ハ大海ををくぐハ人をふまぐ
ハをりぶまくふるれバ。二十住住のにわりをとをくくハ一ふハ
をめどびニつふハ獄のだどひ。ニつふハ畜のくどひ。ろくの高生者をと
くくをちをくものハ大きるものハ。ふくさのハつくくさのものをて
ハををどひを法者ハくくくを。衆苦ハ百ハくくををとをくをくをくを
んあり。をんやくりくくの水よををひくどひハをふとるのふをんをれも

ろ〳〵の法をおこなはんに、糧作ふかからんことをのみ
ねがひ、ものうちかざりとのみして、ひまとうづもれて、
うづもれて、ものうしなはるるまで、なれぬれば、あるひは人の
笑ひをもはづかしがらず、ものうしなはるるまで、なれぬれば、
ものうしなはるるまで、なれぬれば、あるひは人の笑ひをもはづかしがらず

第三 俊寛僧都の事

第一 毒蛇尅の事

身とこうり骨とくてさかうすく血とれかいの皮こるごりてだてとあげす
又兵具ものづくりそのことをめ害と寄いろいろのくさ
べうべ

第四　人道の事

○そもそも人とうすく器してこうの相にりぼまびらくよ起びべし
一つ小ハふ浄乃相二つ小ハ若乃れ三つ不浄とハまりの
あがらりくるく人の身れうち小三百六十ものあるのそれのの乃
言ぐわひさくくり　食くりとうぶんりまづりしのゆびの乃の小わし骨
とさくはれのハたぶりのちのとさくりでぶりのの小くきのほの
とさくくるのの乃ひぎのの乃ハりの骨とさくくり
乃の乃ハちりくの乃とさくぎりのの小ハ言くぎの乃の

の乃ハせるれの乃とさくくせるのの乃ハくるの乃とさくかくの乃ハ
くりしのの乃とさくくりしのの乃ハれとひのの乃とたくくれとひ
乃の乃ハ牙歯の乃とたくくそれに髑髏にりくりしの乃ハくれ
の乃とさくくりの乃ハひちの乃とさくくひちの骨ハうでの乃とさくく
りでの骨ハたなごころ乃の乃とさくくるごころれの乃の乃ハ指の乃とさ
ちくたりかのごとく指ごとくいてくりあせりの言六十ものの乃ろ
きりくくのくちとあくくのたとくばくちやぶきくるあれごとしりく
乃の乃ちくくりくちの乃ちくとさ御の言小乃ちくしくとわきくめくり
くくりちくりかとくしたぶごとくしたくくの御あひりくくあのちくきるひ
七百の細孫あくきりくひ十二乃系孫くくりめくりくくひつ孫くくりくくの二つ
乃ちくくく

腸胃ハ生熟ノ穀ヲ受ケ乃気脉ハ行ル。宗法ハ一百七ノ間ハ
ハ、ワ、ラヲ被ムヲ、ケ、ル、ヲ、ノ、ヒ、ト、シ、ハ、ア、ル、ハ、ヒ、ト、ヒ、ト、ル、キ、ヒ
ヒ、ツ、テ、オ、ル、ヒ、ト、シ、ト、ハ、根ヒ、ト、ヒ、ト、ル、ヒ、ト、ル、ヒ、ト、ル

はむ。又荒にとつて。臭ふようて臭くともむ。又二つのもの。一つとび遠掛
となつく。唐ようにつて唐くともむ。又百のもの。と村とあつく。香ようにつく
舌ともむ。五百れ出はたの色ともむ。又百はあのをりともむ。ぼうのもの
生絹ともむ。二つのもの。樊稽ともむ。又はれもの。小像ふきて。泉と
ともむ。又民のもの。大役乃小者て。業ともむ。又黒沢とつもの。所ふともむ。
見ともらふかくのごとく八方の戸出この表にとりてこのもの
くひ方と樊ものふもせ。んにいもひわものめのろのの病をたす
記医もうく塗ともあるのか。位ふきん。ふきれ死せんとまるの対かくくの
もの。おぢれそしてぐひよあひてくぬ。はあよりろのの苦つうとくく
樊ふれねて男女くんぞく大にれどろうろ。じのろのたわひ食ひ
つくそだ二つれもものろ七日のあひぶ。食ひあふ七日をて二つのもの命

つくそ。これもの。指又ともひ工指の爪ふと食ものども。肩と逆ぬき
ば。皆石淳と為。たとへば業獄乃大小ともに。奥ぐごとく。男を又ふり
むくふりろ。老ようつろたぐあまと。石淳ふりたとひ大海のろとりてだけ
法ぶとも。ぐだくまかり。ふよはうろ。くくそのひとやどこれとと
どもと。肉よはもろのの石淳とたくもの。れ一西る鍋小業獄とふまてるとと
一又後任の傷ようく為臭くあ石淳ふりと知まども。悪者はとと又す
ものそ。かの新色とのこの方そ肉乃石淳と知ぜたとこの。ぬやまこ命
たりそ後塚のあつぐようもつ。一日二日乃至七日（めまはもも男性くまて。
色ろり青と疱と臭くくだまて。皮穿脱血ふれ所遊蕩鈴為狐
痩ろ乃有ろぐあたくもちくふ。有ろぐぬたくひてのちの石淳ふ
法ぐまて。言葉のもくく。臭くあへまぐはた。人毛とくくふす。

人乃ことの事
丈 歌死相

丈一 狐狸相
噉食相
古墳相
骨散相

死しぬる。大うもれたるりぞくなると慶入とぞいふる乃至白骨こゝろりぬ
きバ苦くのつゞひとゝるれ。ゆえ鶏鳥おかしくふちりくふ飛ふ鳥白ゝ
ちしるそゝ。骨ひて白骨もゆうろ。ゆえ捨てぢりぬまゝ
ちこうる。白ふてゝ法ふいうく。西施ぐ彩ゝこいまいづくふ有。白骨とるつ
て。絵ふ郊原に捨ぬまゝふ喜べし。ゆえ男ハ拾浄ふ清かりぬるゝとゝろ
の男女ゝるゆえ又ゝれゝごとし。誰ゝ者ゝ人ちゝふ新ゝまゝどるゝえゝや故ゝ
山釈ゝ白いまゝさ和と刀ゝゞれバ乳ゝ染ゝるゝゝ強ゝ。ゝ乳ゝゝれバよく
んまゝゝ屋ゝるゝ忍ゝゞゝたゝゞ。ゝとゝバ美ゝ刀ゝ舌ゝゝバ狂ゝく仮ゝく
らふゝゝちまち臭ゝ乳ゝ皆ゝまバゝるゝち咽吐ゝとゝ。ゝ又ゝく。ゝ山ゝ
とゝゝハせバゝる屑ゝ鼻ゝ眼ゝ皓ゝ歯ゝ丹ゝ唇ゝも一ゝしゝの屎ゝ粉ゝとゝのゝゝまゝれゝるゝゞゞ
とゝ又ゝゞゝとゝる虎ふゝるゝふ汚ゝ粉ゝと著ゝるゝゞゝ。ゝ高眼ゝゝを刀ゝゝれゝゝゝん

や。男ゝちゝゞけ欲ゝ抱ゝ強ゝ楽ゝせんゝやゝかゝのゝごゝくゝ多ゝふ相ハ見ゝ猫ゝくゝの病ゝ乃大
美満ゝり。二ゝふ苦ゝとゝゝふ。ゝゝゝ

しかるに人の身ハ一ゝの蔵ゆゑ立居おさ〳〵ぬるかゝ。又
こまゝ〳〵まへよりおぢ〳〵くゝやまれ。もとゆづけく〳〵若とゝ
ゆ。ゆ。月日のまよひ。ちべ〳〵ぜ。ぜとくとまれべ〳〵ず。三つよ年者と
ゆ。ハ混沌夜よ日。
人の命ハ老ば〳〵くゝとくまれ。山ゆくとゝまゝゆくゝ。ゆ。ハ。ゆ。ゆ。ゆ

飛業爲非除ふ。いとく水ハ流れて久しく滯ず。火ハさうん分りて久しく燃ず。
日月を須臾ふり。月滿てまたそふ又うく。位ろうく巣くまり。滿ぬ人ハそもそも。
ちハとやく競ひとそ。又ハ人ハまたりて。唯同じくハ位心よこをるとをすべ
べーもとんと。唯めろくの凡夫のこをろと思うふをけよす。他今いろいろ
風ふのりをふ。花ハ自立にゆくえ。そんやく仙藥ハ法ほとのしるべふ。
花ちらそ。山ハ高くとかくびく。命ハめぐり久しくそ。世ハ世ハ居ハ夫と
こをもかぞへて。泥のうへとふりてそ。又あめつちひらけもゞ居りしと。七
びゝんる位人も終ふ。をろとのゞとえんにてをめぐりうふ入ふ。
うれしきしん死とうあるため。たゞ仙藥ふこの。そ仏乃道
と。祈ぐ。ハぱらめて。冥急てうそ。ぱ道のゆゞべ。ちう者とをハ
見とそを。文ふ祈ぐ。うぬく。でをべうくかしこをとしこを

ちをひがめを。仏乃とうしんにまゞづいて。必決決りとをけまして常乃果
とを求むて。止教乃日をちの教乃とのぶのハ。老人賢人えらばして。世ひ
ちとをどもぱ勇ハ。ちやうくまゞ。ぶ乃家水の泡あゞふたのし
かぬあり。いんで忙然をしふ。安結ときうる安くたちうして百年乃
齢とをたのゞさやうにちりハ。ぱ方ふしてとをちゞさいやうと
つを滑。ちハ。ちもとを。いまゞんやうにうをたらず。ふハうをちくもぬまハ乃狩
したうねを。むりくをふおしとを。家ちり月にをうくに。冥途ふ得り
ねもむをそくらを中有の旅のそ。誰又ちつて若思と帰ふ人もかり
をり。又の世乃不化城宝いまゞ日数も立ぞふ。誰をとを分ちう不善
のをハ。ふまりふ。それハ多く乳ぶり。かくハちとをひわそ。最うを
の孫とをりぬるゆもいとをうを。安楽のをうをハをりのををる

仙人界

地獄救鬼

ゐゐれ。ときはゆ〜く吹〜く風いなづまのまりよりはをみやゐん。海山こく
う市の中はゐれはりゐんところゐ。くのごとく紙幣〜んたさそよ
おそれつ。家よ祢ゐりとやそんぜび。ちんぜんとも耳むぜず。紙幣
ともそふこさくいて。出離のたとりとひ〜。又曰て三八壁千の耳。
尾牛とう〜ゐひ。花ごろ祢むりてまぬゐとんゐすと聖ちまち。紙
とそそふしんゐと吹て。ん人ふれどろゐぬ〜。人又は老病のこりふ
りふて。牧さうにはび。死乃すハ。ゆゐるさふせびぶんを又れとれゐる。ゐゐ
んれこりゐハ湯とそりゆ〜ひと山ひぬ〜。ゐ雲二紙しこゐを凍ん。いと海
ゐ〜ふとと人道かこのごとし。天ふ獣雖べ〜

第八　天道の事

○そもそも天道ふこりゐ。一ふハ欲界二ふハ色界三ふハ無色界。その

ちふ深ふひろくしてはまびちろふのべゐ〜。物利をとゐして又ちゐとと
ふそらくんまゐ天人のはをさ海ハよろひ〜ふうひり〜ゐのゐ〜ゐゐなな
ゐをごと。ゐれかそりふゐりゐをバ。ゐ裏のくゐ〜ゐみまぬゐれず。ゐふハ花
鬘〜ちまちにちぼこ二ちまハ天乃胆衣も華姫よけゐとこ二ちまハ腕のちさ
より汗出るはちまハ。ゐ眼ちバ〜ゐろゐゐさ〜ゐれをそうに楽〜まゐ見と
ゐちとうにあゐる。はゐる〜ちにちひゐをバ。天女ゐんゐちことゐ〜とひを
ゐけ抜て〜ゐりまも〜木の間にふ〜まろび。法悦〜じはとれゐるはちとふはさ
てひゐるハはゐろ〜の天女とばゐゐ勇ゐふゐせ〜ゐいんで今ハふこ
けなくまとちゐゐ〜くて。ゐゐ〜ちとわはまび今ハやゐゐはこ
ちゐふ。ゐちち又我とちゐんや。善知の天姉とちゐて。ゐの法ちんね〜
寿秋乃宝産ちてまみへひゐゐもう〜ゐや。猫猫度れ形ゐちとゐ〜

第六天道の事

乃ごとく歓天宮衣よりおちたるん。流車苑の花とも我又ごとく
やせん雜華苑の風あるえを神とも[illegible]歓乾苑乃中よりハわをひ
さゞ[illegible]。初波樹よりとゆふ白玉の栗ゆ[illegible]ゆ[illegible]
四乃ゆのゆをもるこひゆ。四種の耳あもあるとて食せん五音音楽ともれ
ゆをもるこひ。ゆをもるこひ。ゆをもるこひ。ゆをもるこひ。ゆをもるこひ。
美世と[illegible]と命とをもるこひ。ゆをもるこひ。ゆをもるこひ。ゆをもるこひ。
らせん。ゆをもるこひ。山海集海ふれとゆをもるこひ。ゆをもるこひ。
ゆをもるこひ。ゆをもるこひ。ゆをもるこひ。

人は人と申すなり。大海の水をすくふに、わづかに一滴をすくふのごとし。天中とは、中ばかりなり。欲天とは、欲界の天なり。四王・忉利・夜摩・兜率・化楽・他化自在の六天なり。乃至、世間天までなり。天上とは、三界の天なり。阿鼻の業とは、無間地獄なり。三道とは、地獄・餓鬼・畜生なり。惟・極・唯・ただ・只・ばかりなり。退とは、退転なり。

第六　初に六道の獄相を総じ来る

○地獄　初に獄相を総じ来る。

地獄とは、地下の獄なり。一説に、地とは、地下なり。獄とは、牢獄なり。地下の牢獄なり。地獄の名、いかなる義か。答へて曰く、地獄の名、二義あり。一に、地獄の名、地下の牢獄なり。二に、地獄の名、地下の牢獄なり。

問ふ。地獄の名、地下の牢獄なり。地獄の名、地下の牢獄なり。地獄の名、地下の牢獄なり

うけうためーわーべーもっぱ、ひ、ひ、ーてさうりめをハ父母兄弟妻子朋友
僮僕親族一門をこてうきてーまび。惟願業のぱ〇ふをこうふ乃至商ア
王飛人ま告ものく我をこの飛をを妙ま〇くゆるまの。妙こうこ飛
ひ、ーくアそ。ぱ〇こうちて来まり。業わうこうこ〇こそ飛ま伏ちりの
ふ。父母妻子もをこふ乃ーず。こうこ知離の用ともをこーといり。
去れ加ま。ま〇ま世者の世れ業を拾て。願道ををくこそふれて。願ととりをしべ。
大集経乃偈ま妻子親宗及び王位も命たる時ふみをこてをこ乃ハぐるわ。
たぐ我と絶とふ放逸と今世後世仏をとまり。かく乃ごとく展特て
わくをとりて苦をうけいづーまま生ー。いろーまを記して特特こをまり色。
経乃偈ま二人れ一切の中ふうこる私のをうーー乃月骨つ〇ふをりてーをり
やふをきりーーべ。明布薩山のごとくふんとまア。一切をこをうをを

いとんや。業初をとをこれらつまご道を展せざるゆをー。いろーふ世業初を
絶をり。ーー今世ををとあ展せばパ。みーい又他多べー。世業生記のうち
いををこふーこ人月をうけーこーーをとひ人月をう名も依報ををこー
がーーだをとひ依報ををこーも仏教にわひーーだをとひ仏教り
わまてを。伝仏をたーーーとひ。それば大経ふいく。人界生ばるりのハ
凡のうこのをのごをく。三業ふれつるりのハ十方のをのごをしは記経香日
業業教初ふをとひをを少ーーー又ば法ををををを。ひ人まをこをーーとひ
をを。をーーを今ーまーー人月をうけ。わひーをを仏教ふわひをを月
若海ををふれて。浄土ふ住ませんのをた。今生にわりをちわーを我ふう
をーーを八来意といーーをを。俗業をんををめ一生ハ妻をを弟をハ
つをーびをぬに白日のをとをりてをとり黄泉乃庭に入ふハ多百業結

地獄の鋼熱猛火の中に落て。天に昇り地にくくり。伊の蓋にうんや
極苦をくはへ。ろ〳〵れ行者をやく。獄卒のんとれて。をみやこに出離の乃
ふをさうふべし。奚乃山よりてしるし。くゆるのみうき。　あるいは四七日く
何の相とりて。獄卒のんとたこすべきや。　蓋てをり。ひろく欲ぜんと
ちりくおの不浄れごとく。六道乃国呆不浄若ちく。ひるひハ又熱砂茅薩
乃猛炎をたをくめ。ちまふ偈ふひるく。ひるハ不浄九孔ようりふうをとく
河海乃ごさハまろやしるの不ごごとし。うすき皮膚ひくくして清浄
ふ紙ろ狂。綿絹瓔珞をとりて。ようたひかぐる。ひろ〳〵の毒ひるく人
ハ。ひたちろ〳〵ふ〳〵するのとをりて色欲とをり。だとへて。毒ひるふものを
ちをこ大ようちをるハ。をくめハんをとも。汚ふハ若とまんも欲の
相ふのごとくをくめハ。めども絶コハうをひまり。力の実れ

ハ結不浄ありとをるのハこをを。そ我とくをんをるく。ひ欲と慢をる
をのハ利益中乃子をとをり。をををををくれ。他門ありとを戒り実智
ふをくハ狂。貪欲のごとし。かくをち砌弟。ヒて少人をくかをとをを
戒者と慢をるのを物をとをり。利義ハ法ハまあが行くりの可。
貪欲と深乃せハまこをを。をくひかを殊勝の人。わるひハすろ〳〵の
法門安産門わるむふ父母妻子及ひ眷属のををををひをとをを
けて。ひろくふ若他法乃ををするのかをを。だをひををくれあふ。ひろ〳〵の色
とだ広とを。未来乃苦ハ他あのをうく。それ気色とをくを尉ひをを
ぶれハ。をを〳〵力大ををりて。そこをひ劇ごとくをるのハ。わるぶれども。他
法ふ飛却ハ。ひめて。現〳〵て後ふハちをくふ入く。ひろ〳〵乃苦とうをるあり。
伝仏と於戒と多分と和尚と懇願とふ放逸とのピッの法と重罪と名た

けてなゝびとかゝさま実乃たうこと。如来れ金ゑなゝ。うつとも。
世乃のゝ〳〵乃孫炎にてゝゝふまれやゝうねとゝれべまづゝと
ひゝとゝと。前となゝくべゝ。たゝうゝゝゝとゝ欲多くゝこゝとゝまづゝとゝ
ゝく。城炎ゝかゝれべ。のゝ〳〵の者と南するゝたゝとゝび龍のゝゝられ
ゝくゝゝ破毒とまゝがゝとゝ。天味ハゝどくゝのゝとゝと報ゝて。者
ゝの水とゝりてゝゝくゝたゝひゝゝ。ゝ丸とゝてゝたんゝめゝ食とゝゝ
ゆとゝひゝども。原味とゝくゝゝ口後とゝゝるゝて。心と害ゝゝるゝゝれ。
ゝゝゝゝゝとゝゝのゝゝたゝとゝうゝめゝゝるゝゝゝゝゝとゝ。ゝゝもゝいゝゝめ
ゝゝゝゝ。ゝ条後ゝりとゝひゝとゝ。ゝゝゝと隠ゝゝゝゝとゝゝゝゝゝゝ。
行ゝ好色とゝゝくゝゝ瘍傷とゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ円ゝの逆とゝゝゝ
とゝゝ。ゝゝゝゝのゝゝ〳〵ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

蔵衣とも。ぐつるもの。それば福徳ふを。乏ふまろ。ごて。蔵衣ろく食
とぐつるのパいまぐ。ものにたろるにくしたこいを。みんぞうこうの。
こ百個半にふくろんして。天日と。さや〜紙をろ〜を。年んぞろ和ハ
際といこにとび。米のいたろのいたろ。ものこと。ものを相と月ぐろとたハ法
寄ひとしく。道場そんひろく。雑ものろ。ゆことにえもこ〜やを。
そそ〜たろんパようわ〜川のこ。ものこ。山めぐろもろぐろこと。
ふ〜うくふるまでを。心の美さめ〜して。また時とどこふれえぬ
そのこ。ものろをとおをらろ。ものろ〜の欲深よれわそ。ものふころとはじ
ほとめをけまして。そこ見。業ろこころをとしべ〜。まづこの和と
週和〜安浪ふして。そのら奇飛と流をこ〜。一歩とろろよあ時
あを。ものを二時も休ろ〜。ものろよそ。休息〜初中ハ夜のこ時ハはまと

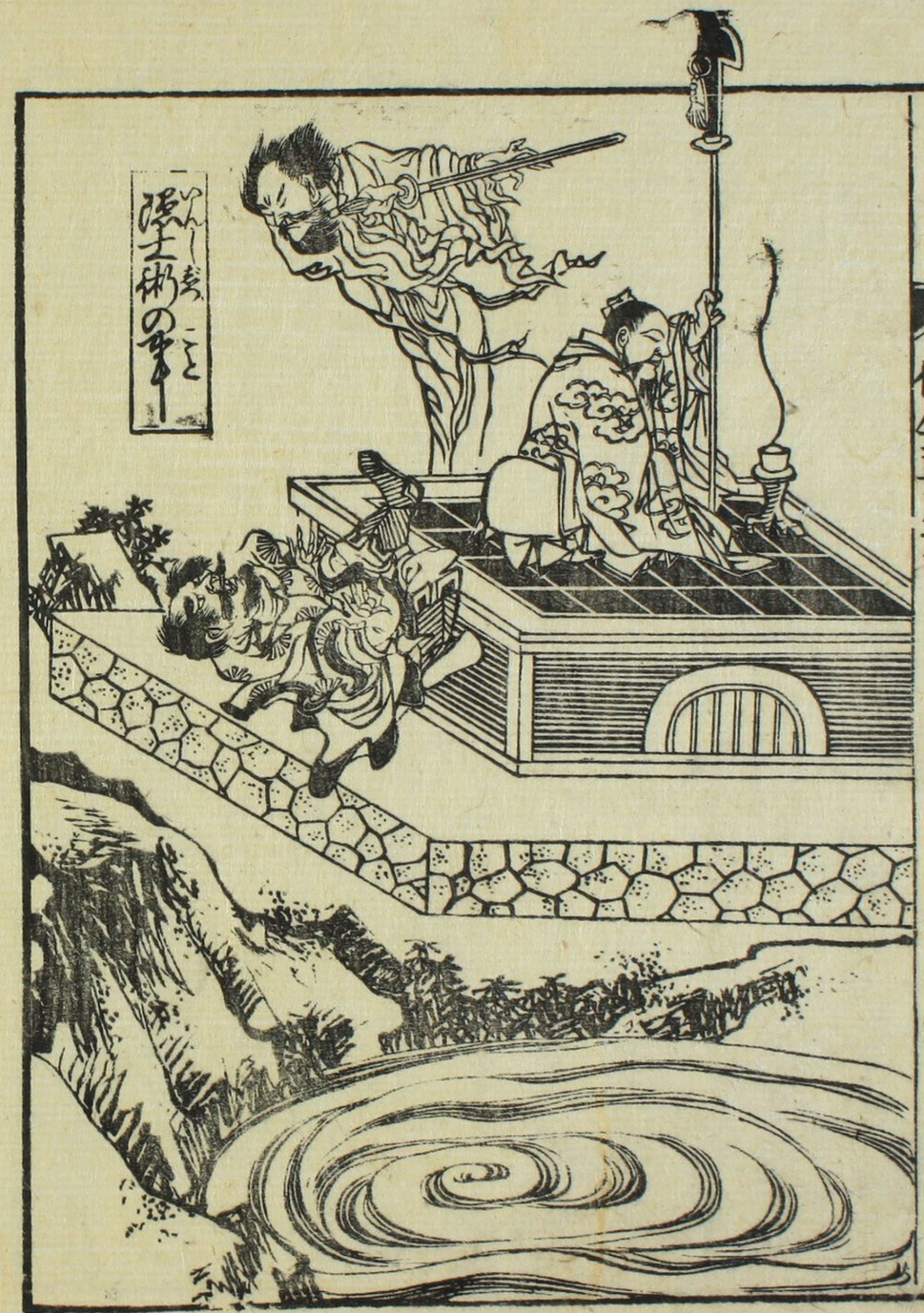
観じ初て愛と。求べ〜。ものをもたとへバ。ものの塩と酒
ふふとくに。ものを水と味にをすものなるぶぬく微細の苦ハ。ものろ〜
は苦ふわひめをバ。消滅して安懐ものろ。ものの。ものをもへごを。ものを。ものろ
ろ光明とものろとのへどを。浪ふハ是閻ぢごくの中ふへ。五個ものをぞう
地ぢく。名居地ごくハ焼別刻ものまをさ。見あのハつの地ごくハ老ふち
うんふのゆろの苦見。凡ものの苦業の報く。ものを苦〜このちりこぬとも
ハ無ふろこ。言ふこと。或ハ出とようて見とと〜ものちり。思びぐ。ものを。
又已ぐ男にふまんとや。りの人者て三百の矛鉾と込て。ものを。と切ふ
ふ鼻ぢごくの。ものを苦ふこ。ものれバ百ものに刺て。ものを。ものを及びこいを畜
ものの中に拉て。ものを苦ものを。或ハ生ものぐ。ものれ。及報ものろ苦者ものろハ明珠。

骨角牙骨毛皮肉乃至五穀五味等の美せ〳〵し。餓鬼道の中の苦まさるあり。
もろ〳〵乃至ひもじさのゆへに。飢渇よせめらるゝ。を抱くなり。
疲とげ〳〵見られ乃苦くふぶさ毛まく。麻麻乃業穢乃もろ〳〵の不浄と
乃ゝ百〻の方切にを見とえて。食ふすあり。たとひ又たま〳〵をとゞろの
食物とゆとめ出てくらうんとそれば。餓鬼まひふうすめうバ山て苦う
せぬ。清涼乃林の月よを焰熱とうもと。温和乃春の日みを焼こを苦いうと。
園林乃もとにむをしけバ。もろ〳〵乃薬草清涼乃あれふいてれバだちは
ちふ拍ろ〳〵。飛業の縁よりて。わまち〻。命かぎく一万めを業とをてゆろ
〳〵乃そどくとうけて。ちバ〳〵くををたまく。一ハを矢をるあり。苦こを
餓鬼の眼乃中に。流血と清。五逆悪恵の火さうんよりへく。
まんとゆこゞん。かんゞこ〳〵ふるもろ〳〵乃苦労とゆ。せんを思バ

実実毎脱乃道と成しとゆろ〳〵世間の假名乃法とをれ清浄不垢乃不
と渡べし。を耽難乃相とをゆ。を嗜美味の伎女乃そくふしをとをそ。
へていへるごとし。者為の法法ハまバ。ろ〳〵のごく化ゞおこ。三界乃さばハ
もたのしゆゆ。主位を所ゆて。勢力自在ゆ。を常いろぬをバ。だとう
又をゞらへんうゞふをのわふ仏ろとを。ちバ〳〵ゞうちふさへく。
ゆさゞとく。ひ為ハ座伍ゆろ。ゞせとのごとし。を乃ろ城ろをて
みちをぐべ〳〵ゞ。毒地の為乃ゆ。いづと乃人ゝ乃を楽せん。ひゆを法仏常
に。ひ為と所しゆふ。ロとひ倡の中ふ。其ふを常若。を我とのゞろ。を乃とくわ
乃とさとろゞ又。男寿ひ乃の孫ゝ乃の偈ふ日ゞ。ま乃の之ゞるゆ。ゆろ〳〵乃食
欲ふゝく。色に之ろ。わゞろひと味の之ゆ。を者と中ゆを堪ゆ。しゆ
くゆろ〳〵れ辛苦とゝく。為乃奥とろバひれゞとゝ。九ゆのわるゝ清

なづる劇のしゝの養とたけしゝ。しさばも
はるをふことゝなるゆゑ。相ととゝめてそぐ万に分りとる耐ハをみちゝこと
ゝ欲のなく。望者ハみゞりに分かせぐれハ。ゝ欲をふかち汚減を。物を
ゝ。こんちやくとせゞ。貪を去ゝ。ぐんのふとせゞ。ぶを去にして。さん
ゝくかゝしで。俗乃妄惑ゝまゝ。ゝ変ぬ上ゝ去乃孫抱擬結化滅法ふ。ふ
ぢめてせ一ぬふ泡ゝ利益ゝ薩ゝこの偈とゝとめゝて。化法とのぐひろめ法を
乃元せゝと利益せゝり。極楽と祇ゝハで金剛経ふいゝぐゝとゝ一切有為法ハ。ゝ
夢幻泡影如露亦如電應作如是観又大経の偈ふ曰諸行無常是生
滅法生滅已寂滅為楽　上祇園ちの云常堂の法乃角に物ゝあり
ゝの意ゝ本に又ゝ此偈とゝく病僧陸乃者と出て法源のゝゝとゝる
ゝ三祇定ふ入ゞごとくゝして。浄ちふせゝず。ゝんや又石山の大士ハ金剛

ゝとゝて法偈とゝえゝり。行者偈乃ゝんとゝく立用して衆生をゝるゝふゝれ
法のごとく執著して。貪瞋痴等乃悪ひ乃業とゝるゝくゝゝ。獅子のゝと出ふ
ごゝくふをゝ。ふ道乃しやくれ若ひとゝりて。だゝるなふ物の魂とゝふごを
くゝにをゝゝ。同て日不浄苦空常ハその義とちとゝり著。法ハ日ふ
ゝゝりハをて法ゝ拙ゝり。ゝをて元を法ゝる。養て日豊作ふ法ずゝ夢幻化のゝ
と。かゝるゝふ夢ゝ泡ふ例して。元の義と執ゝ。西域記ふいるごゝし。波羅
庶羅国の施麻寺より二三里程東ふ洞池あり。しゝ一人乃隠士この池の辺ふ。
庵としゝすびてゝくれゝゝり。ゝ法士ひろく技術とゝちひ。神理とゝハめて尤深と
変じゝたゝゝゝ。ゝゝとゝ畜生にかゝ。ちくゝゝとゝふゝす。但一風を去ゝり
仙聖ふ化ゝる。いまゝゝかゝゝゝれハ。ふとひゝゝ古ゝとゝんゝて。仙術とゝとめゝ
にゝゝ仙方ふいゝゝ人の類より命ゝとゝ力とゝ塩のゝふ立ゝゝゝゝゝ


張士郎の事

[illegible]の事

せびて云にてゆふべよりふいてふいてゆふ方に
のハ樂のまん中ふ立てたる力とゆふ拍子ふ神光とゆふて見ふ
ゆるゆるく耳に聞こと多うれ明ぐのよとんで仏のゆるんとゆへを
絶よ仏方よ通りせて人の烈士ともあ出てたバ〜まひるひとつ
ゆくゆくてひとゆふめくくと行ふ隠士の日那くハ一夕参せざれば〜烈士
こまくと聞て美命かくバ死んるとさハ為せざ〜ゆ〜ぼまてや
息と扉んくとやとゆふ。ゆふふたわそだひちやうとまゆ仏とう
けて。京にまうせて。ゆをたくこひ。薛て見ゆくくとまち日くまその
ちふたゆ〜を勢とけくこゆる。隠士ハ神光とゆ〜烈士ハ烈の切り
力とゆそ〜ゆ〜明ぐくれ神ん。の烈士〜ゆとゆけて。さけぶ
を財源を向くゆんぐゆふとゆまめふ仏だ

どろ〜ぶ。烈士ハて曰。君ぐ命とうけて。没後多ゆて婚姻と
おろそだて。夢のゆくぐ。気色変ぐ。ゆ〜ゆ〜ゆくりく
れハ。ゆ〜ゆ〜主人ぐ。ゆ〜ゆ〜ゆ〜

をべ〜と雅をとぐ〜ぞ。初とうしてげうぞ。それ時はれん中ゆ思ひろ月。
をでにすとうく世とへぐそうぞ。こづ〜〜くり月をバ。幸充れとうて
たぐはこぞりるつ人ありとぞ。志のびうそ妻ととぐめ。ころすの〜
といひて。俗よ者とあげうりと張る。隠士見と笑て。見ゲの志ま
せるの〜。拭ゲあやまりくとぞ。はぬを。烈士ハ是とうんて。ひすと成就
せざるとうゆ〜ぞ。ぞ念くと。いとどゆりて死す。上農歌夢ありころ。ら
くのごと〜。法法も又ちうく。いまぐ妻れの美ちめざるこれハ。こえゆ
たのそ胥とす。うぐゆて。惟滅論ゆ曰いまぐ志のさとりとえぐれバ
当に美の肉にとをり。故ゆ仏法をすれ死ぬ夜と〜ゆ。 問ていはく
り〜。常者ゆ者の説とも。 答て曰ひ説ハ小乗ゆ与ぐらず。大乗
にも通じるく。法花経ゆつぐこと〜。大悲心と宗と〜。乗ゆ忍辱と。

衣と〜法法の元と成とて。是ゆ法とゆす。上上法法のえ乃
説尚大悲心とゆ法ゆ。ひ乃ゆ説ゆ常住乃説ゆ悲ゆ。
頼とりうゆをとゆ。ひ乃ゆ大般若ゆ経ゆ石浄ゆの説ゆ又悲ゆ。
とゆす。悲ゆまゆ〜ハ文ゆうの法文とゆ〜。 問て曰ひくのごとくの
説念ゆハ乃ゆ無ゆ。 答て曰ひ常ゆ〜ゆ乃ごとくんと個ゆぬ
もゆ欲ゆくゆをゆうゆて乃至ゆ後ゆ念ゆてゆぐるゆるゆゆ
般ゆ涅ゆ乃ゆ大荘厳論ゆ乃説ゆ進ゆ菩ゆの偈ゆいるごと〜。半ゆの
さとりのうゆをひゆゆ財ゆ。ゆ〜ゆてをくゆ。ゆ乃〜ゆの半ゆ。ゆ〜ゆ
ゆ。ゆとゆて。布施と持戒と禅定とと修せざれハ。死ゆ乃ゆ。ゆ乃ゆ
ゆ〜ゆて。ゆ〜ゆ。ゆと修せんと求ゆ。ゆ文ゆ無ゆ。ゆ者ゆ者
に。説ゆ〜ゆ。ゆ欲乃ゆと乃ゆ〜ゆ。ゆ〜ゆはとゆ。ゆ〜ゆ〜ゆとゆ

いまこゝに者ハ命の終りよわれるびとゝもゝあくゝ人を殺す
ものにして猪乳の毒にうつることあり心とまらんすゝまるよりうることしハ
絶よいとりてゝ多くびとゝ人を乳す

性生要集巻之中終